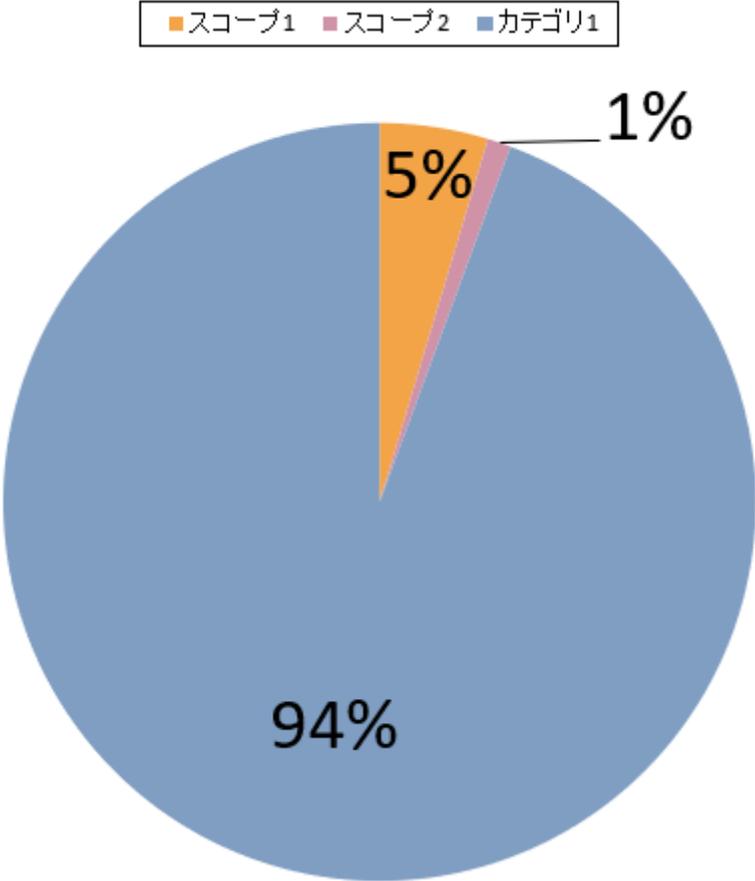


# イノチオホールディングス株式会社

項目	内容
1.企業情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 業種：農業関連サービス（建築・販売・農業生産）</li> <li>● 事業概要：農業用ハウスの設計・施工、農薬、肥料等農業用資材販売、農産物生産・流通・販売、花き育種、営農支援サービス</li> <li>● 事業規模：売上高327億円（2019年度）、グループ会社17社、従業員1,001名（2020年1月現在）</li> </ul>
2.削減目標案	<p>&lt;Scope 1・2の削減目標と削減に向けた取り組み&gt;                  目標：2030年までに2019年比27.5%のCO2排出量削減                  取り組み：省エネ技術等による燃料の削減・再エネ化、燃料転換、電力再エネ化</p> <p>&lt;再エネ100%の目標について&gt;                  （目標：2030年までに再エネ60%達成）</p> <p>&lt;Scope 3 カテゴリ1の削減目標と削減に向けた取り組み&gt;                  目標：2030年までに2019年比27.5%のCO2排出量削減                  取組み：環境負荷を抑えた資材の購入、資材転換、資材購入量の削減</p>

# イノチオホールディングス株式会社

項目	内容	
3.基準年のGHG インベントリ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● Scope 1・2・3の排出量の状況</li> </ul>  <p>                         スコープ1 5%                          スコープ2 1%                          カテゴリ1 94%                     </p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● SCOPE1 : 6,942.7 [tCO2]</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>● SCOPE2 : 1,502.2 [tCO2]</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>● SCOPE3 : 140,855 [tCO2] 目標の対象 セクター : カテゴリ1</li> </ul>

# イノチオホールディングス株式会社

項目	内容
4.気候変動によるリスクと機会の分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 農産物の栽培適地が変わることによる事業への影響や自然災害の頻発による自社および顧客への損害が懸念される。</li> <li>● 将来的にサプライヤーや顧客との取引に重大な変化が生じる可能性や、対策の遅れが投資引上げにつながる事が懸念される。</li> <li>● 自社の省エネ活動の促進や、再エネの導入によってエネルギーコストの削減が実現できれば、生産・調達・販売コストの削減や新たな商品・技術の提案につながる可能性がある。</li> <li>● 自社製品の普及が促進される可能性や、率先して自社が対策に取り組むことによる外部企業評価の向上が期待される。</li> </ul>
5.削減目標設定の背景・目的・期待する効果など	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自社の推進するSDGs志向型経営の中で気候変動のリスクと機会を位置づけるため、中長期CO2削減目標の策定を計画。この目標が2度の目標水準に整合していると正式に表明できるよう、SBTの認定取得を目指している。</li> <li>● SBT取得により、顧客やステークホルダーからの削減要請に応えることを示し、ビジネスチャンスや新たな取り組みが拡大することを期待している。</li> </ul>

# イノチオホールディングス株式会社

項目	内容
6.目標設定のプロセスと社内の議論	<ul style="list-style-type: none"><li>● SDGs推進本部で目標数値を検討し、役員会でコンセンサスを取得。役員会においては、各部門別に温暖化のリスクと機会を検討したことで、野心的な全社目標の必要性を共有した。</li><li>● 目標の実現可能性について社内で意見があったが、2030年時点の事業環境の変化は見通せないことや、社会的要請に応じてバックキャストで目標を設定するという方針を説明し、理解を得た。</li></ul>
7.今後の課題	<ul style="list-style-type: none"><li>● 省エネ・再エネメニューの具体的な検討と投資判断</li><li>● 既存事業の成長計画におけるエネルギー源の転換</li></ul>